

出前講座のご案内

●男女平等参画講座

男女平等参画社会はどういう社会なのか。性別による固定的な役割分担意識から、女性、男性、それぞれの生きづらさについて考えます。

●ドメスティックバイオレンス予防講座

DV（配偶者からの暴力）の現状や取り組みに関する正しい知識を身に着け、「DVをしない、させない、見逃さない」大切さについて学びます。

●デートDV予防講座

デートDV（交際相手からの暴力）について知り、被害者にも加害者にもならないために、お互いを尊重するコミュニケーションを学びます。

●性の多様性・LGBTQ・SOGI講座など

自分らしくあるとは？ 性の多様性をじぶんごととして捉え、誰もが自分らしく生きられる社会の構築に向けて、一人ひとりが自分にできることを考えます。

上記以外もご要望により対応いたします。ぜひご相談ください。

【対象】企業、学校、地域グループなど概ね10名以上

【会場】国立市内（市外の方はご相談ください）

【時間】60分～90分（ご希望により調整いたします）

【費用】無料 ※資料代をご負担いただく場合があります。

【申込】開催希望日の1か月前までにお申し込みください。

申込用紙はパラソルHPからダウンロードできます。



3月8日は 国際女性デー 「ミモザ ウィーク くにたち」開催

3月8日（土）の「国際女性デー」に合わせ、パラソルではこの日のシンボル、ミモザの花をモチーフにさまざまなイベント・展示を開催予定です。旧国立駅舎では3/5～3/10に展示を実施しますのでぜひお立ち寄り下さい。詳しくはパラソルHPをご覧ください。

実施報告 2025年8月以降	8月26日 国立第八小学校
	9月6日 八戸市性的マイノリティ関連講座
9月7日 江東区Koto Vision公開講座	
9月17日 国立第三小学校	
10月21日 鎌倉女子大学	
12月4日 明星大学	
12月2日 NWEC事業企画研修（オンデマンド）	
12月11日 国立第一小学校	
1月20日 国立第七小学校	
1月22日 日本赤十字社助産師学校	
1月27日 国立第四小学校	

相談のご案内

家庭、ハラスメント、仕事、人間関係など……「こんなこと、どこに相談したらいいんだろう？」と思われたらまずはご相談ください。相談員による日々のご相談と弁護士や専門家による相談を、曜日ごとに行っております。

プライバシーは必ず守りますので、安心してお問い合わせ下さい。

生きかた相談室（1人面談50分／電話30分）

[水曜以外の平日] 10時～18時
[土日祝] 9時～16時
(専門相談の時間を除く)

SOGI相談（1人50分）

[第2火曜] 16時～18時
[第4日曜] 14時～16時

みらいのたね相談（1人50分）

[月1回／土日祝] 10時～12時
(HP、またはパラソルまでお問い合わせ下さい。)

悩みごと相談（1人50分）

[第2・4月曜] 13時30分～15時30分

法律相談（1人30分）

[第2・4土曜] 13時30分～16時



相談 TEL 042-501-6996

予約 TEL 042-501-6990

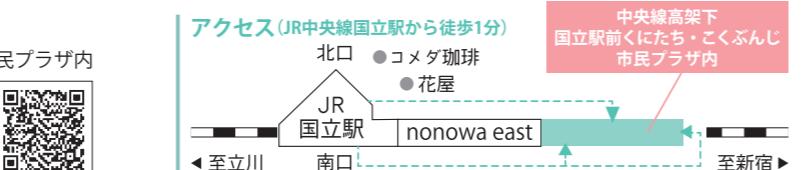
専門相談は
予約制・無料

開館時間 平日※水曜休館 10:00～19:00／土日祝日 9:00～17:00 (年末年始は休館・臨時休館日あり)



くにたち男女平等参画ステーション・パラソル情報誌 vol.16 2026年2月発行

[発行] 国立市 [企画制作] くにたち男女平等参画ステーション・パラソル
[編集・デザイン] 株式会社シーズプレイス *テキスト・画像の無断転写、転載を固く禁じます。



お問い合わせ

〒186-0001 東京都国立市北1-14-1 国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ内

TEL 042-501-6990 FAX 042-501-6991 E-mail info@kuni-sta.com

↑ https://kuni-sta.com

f kunistar x kuni_stata @ kunitachi_stata



パラソル

くにたち男女平等参画ステーション

インターン・職場体験 … p.4

夏休みジェンダー教室 … p.5

上映会「メイド・イン・バングラデシュ」 … p.5

くにたち人権月間 … p.5

ふらっと！しゃべり場 … p.5

地域の活動「子育ち・子育て応援テラス」 … p.6

パラソルおすすめの本 … p.7

出前講座・相談のご案内など … p.8

相 手の不機嫌が怖い。
なぜ不機嫌なんだろう？

怒らせた自分が
悪いのかな…?
不機嫌をやめて
欲しいって言える？

これもハラスメント！?
そんなつもりはない。
不機嫌になることは
誰でもある。
不機嫌になつては
いけないの？

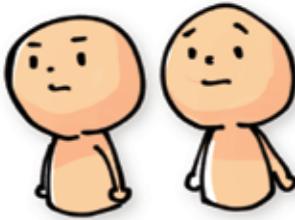
不 機嫌って何？
それは暴力になる？
自分を守るために
できることは
何だろう？

特集 不機嫌という名の暴力

～自分を守るためにできること～

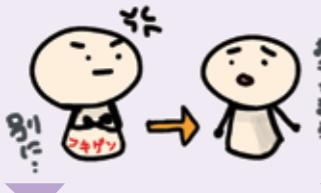


不機嫌という名の暴力 自分を守るためにできること



毎年11月は「女性に対する暴力をなくす運動」(11/12~25)と「児童虐待防止推進月間」。この2つの取り組みを表すシンボルが「パープルリボン」と「オレンジリボン」です。国立市では、密接に関連している女性に対する暴力・児童虐待の防止とその対策を推進するために、2つのシンボルを組み合わせた「Wリボンキャンペーン」を開催。パラソルでは啓発パネル「不機嫌という名の暴力～自分を守るためにできること～」を作成しました。

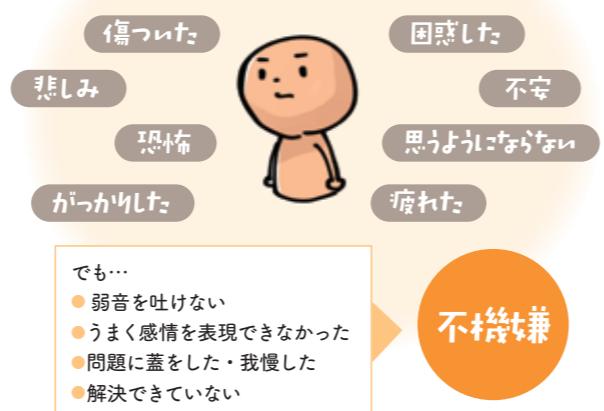
関係性の中で何があまっている?



- ため息、舌打ち、沈黙など（言葉で伝えない）
- 不機嫌な態度
- 相手が折れるのを待つ
- 優位に立とうとする
- 嫌なことを回避しようとする

- 理由がわからず混乱・困惑
- 機嫌を損ねないよう気を使う
- なんとか察しようとする
- 譲歩する
- 疲弊する

なぜ不機嫌になるのだろう?



感情と行動を分ける



- 感情のままに行動する
- 怒鳴る・物を投げる
- 相手を説得しようと/or
- 不機嫌を撒き散らす

- 感情と行動を分ける
- 座る・深呼吸する
- その場を去る
- 友人に話す、相談する

不機嫌になってしまっていいじゃないの?



ネガティブな感情と、ポジティブな感情どちらも大事で自然なこと。

ネガティブな感情がダメなのではなく、行動と切り離して考えることが大切

相手の不機嫌がつらい



- 場を乱さないように
- 怒らせないように察してしまう
- 自分がどうにかしなければ
- 自分が我慢すればいい

- 我慢したり、気持ちを打ち消したりしていませんか？

「不機嫌」

それは誰にでもあること。しかし、それが相手へのコントロール、支配、攻撃という目的になれば、ハラスメントやDVの可能性が高くなります。DV相談のうち最も多いのは精神的暴力(相談の7割に含まれる※)。この中には無視する、不機嫌な態度で相手を追い詰めるものも含まれ、被害者も加害者も気がつきにくいのが特徴です。

※出典「令和7年内閣府男女共同参画白書」令和6(2024)年度DV相談プラス事業における相談状況調査報告書より作成

その我慢はどこへ行く?

- 自分へのモヤモヤ
- さらに弱い者へ
- 疲弊

ネガティブな気持ちや暴力は連鎖していきます

自分を守るためにできること

①離れること

その場を一旦離れる、相手との関係性の距離を離す。離れることは負うこと、逃げてあきらめることではなく、自分を守るために大切な行動。

②自分を責める心のクセに気づくこと

おかしいと感じたり、モヤモヤした時は、その気持ちを打ち消すのではなく、自分の感情や気持ちを大切にしよう。相手の不機嫌はあなたのせいではなく、相手の問題。

③自分を守る意識への転換

相手を変えよう、わかってもらおうとする意識より、まず自分を守る意識への転換をしよう。一人で抱えず、信頼できる人や相談機関に相談することも大切。

参考文献『三重県男女共同参画センター「フレンチミエ」・Web限定男女共同参画ゼミ モラルハラスマント～「不機嫌」が暴力になる関係～2023年(執筆)カウンセラー・公認心理師 高山直子』よりパラソルにて作成。

かつては「法は家庭に入らず」という考え方のもと、私的な問題とされてきた家庭内の暴力。2000年代初め、DV防止法や児童虐待防止法など、親密な関係の中で起こる暴力に目を向ける法律が制定されました。力関係や社会的な属性の違い、弱さや脆さを恥とする空気の中で、私たちは、自分の感情を押し込めてしまうことがあります。また、誰かを傷つけることもあります。まずは、自分が感じたことをそのまま受けとめること。今の気持ちを、誰かに話してみること。その一步が、誰もが抱える傷つきを「ないもの」とせず、お互いの声を聴き合う社会に繋がっていきます。



パネルの内容詳細はこちらからご覧いただけます。



開催報告 |

2025年11月24日(月)

不機嫌という名の暴力 ～自分を守るためにできること～

(国立市子ども家庭支援センター／国立市長室／くにたち男女平等参画ステーション・パラソル共催)



11月24日(月)、高山直子さん(公認心理師・カウンセラー)をお招きし、【不機嫌という名の暴力～自分を守るためにできること～】を矢川プラスにて開催しました。当日は32名の方が参加して下さいました。

当日のレポート

講演を聴く前の私は、不機嫌が暴力性を帯びる可能性について、私自身の被害経験を軸に考えていました。そのため、講演冒頭の「不機嫌になったことがない人はいますか?」という問いかけを受け、不機嫌になる自分を自覚していくながら、その態度が相手にどのような影響を及ぼし得るのかを深く考えてこなかったことに気付きました。身体的暴力ではなくても、不機嫌が支配や圧力として働く可能性があるという指摘は、自分の不機嫌が他者に加害性として作用し得る点を認識しました。さらに、ハラスメントは個人の性質だけでなく、社会構造や規範によって形成される側面があると学び、私もその影響下にあると実感しました。誰しもが不機嫌になり得る以上、ハラスメントは誰もが当事者になり得る問題であり、その背景にある構造を自覚的に考える必要があると感じました。

講師：高山直子さん

女性専門カウンセラーとして、教育機関等のハラスマント専門相談員や東京都の労働相談情報センターの健康相談員として活動。米国で女性学とカウンセリング学の修士取得。東京・代々木に「カウンセリング＆サポートサービスN」を開設。2022年公認心理師資格取得。「メンタルヘルスケア」「エンパワーメントにつなげる支援(相談員トレーニング)」「ハラスマント」などをテーマにした講演、ワークショップ多数。



高山さんの著書

「働く人のための
「読む」カウンセリング
～ピープル・スキルを磨く～」
高山直子(著) 2010年 研究社



インターン・職場体験

パラソルでは、中学生～大学生のインターン・職場体験の受け入れをしています。2025年は、東京都立大学4名（8～9月）、東京女子体育大学4名（8月）、都立第五商業高校5名（11月）の皆さんが参加してくれました。2026年2月には国立二中の皆さんも来所します。

パネル制作：東京都立大学の学生4名が、10日間のインターン期間中に気になっているジェンダーに関するテーマを取り上げ、パネルを作成しました。その一部をご紹介します。

**どう思う？
男性のみでのブリクラの利用禁止**

ブリクラの現状
西尾島市のゲームセンター「アミュプラザ西尾島」このブリクラは男性のみでの利用を禁止している。これに対してSNSでは多くの声が上がり、話題となった。

ブリクラは最新ゲームがカーテンで隠されているため、外から中の様子は見えないようになっている。そのため、ナンなどの迷惑行為や盗聴や痴漢行為などの犯罪が発生してしまった。こうしたトラブルを防ぎ、女性が安心して利用できるように運営会社が女性のみでの利用を制限することに決めた。

具体的な事例
2022年1月兵庫県伊丹市でブリクラ最悪の中の女子小学生のスカート内が盗撮される事件が起き、兵庫県宝塚市に住む会員男性が防止手段違反の疑いで逮捕された。
2024年5月福岡県のブリクラマシン内で盗撮かだった韓国人女性のカバンが盗まれそうになり、会社員の男性が盗眉未遂で現行犯逮捕された。

ブリクラを利用する女性の意見
実際にブリクラを利用している女性高生。大学院生は「実際に一部の店舗で行われている「男性のみのブリクラの利用禁止」に対してどう見えるか」というアンケートを行いました。

結果的に半数以上が63%の人気が反対に近い考え方を抱いていたことがわかった。

女性は「性別による差別的扱いを感じる」「性別による差別的扱いを感じる」といった意見が多かった。

**男子がいると振る舞
いに気を使ってしまう
という意見もありました。**

女子大の現状とこれから
女子大における教職員の女性の割合と、全大学における女性の割合
女子大での女性教員は40%を超える
女子大は約半数の女性教員が在籍
女性研究者の活躍の場にも！
子育てしながら研究をしている教員も多数
女子大ではOGの多様なライフスタイルのロールモデルを見つけることができる
将来の選択肢が増える

少子化で学生数の確保が難しい女子大は共学化や規模縮小などの選択を迫られているが、女子大共学を考へるのはなくジェンダー平等が達成されているかどうかの視点が必要

京都女子大学は共学化の潮流のなか女子大学宣言を発表した
引用元：京都女子大学<https://www.kyoto-wu.ac.jp/idaigaku/kyojo/declaration.html>

パラソルスタッフより 毎年恒例となっている、インターン・職場体験の皆さんとの交流を今年も実施しました。東京都立大学の皆さんとは、上記パネルにありますように、それぞれが抱いた疑問を、他者に伝えることを意識しながら考える時間を持つことができました。問い合わせ言葉にし、対話を通じてテーマを深めていく姿が印象的でした。東京女子体育大学の皆さんとは、スポーツの現場におけるジェンダー課題や、応援団などに見られるジェンダー表象について、日々の経験を踏まえて感じることを伺いました。スポーツ実践や体育教育のあり方も含め、多くの示唆を教えてくれました。東京都立第五商業高校の皆さんとは、「ジェンダー平等」とは言いがたい日本の状況を学びながら、ジェンダーにまつわる「らしさ」について、各自気になるテーマを共有してもらいました。身近な違和感を丁寧に掘り下げる姿勢が印象的でした。私たちにとっても、新鮮な問い合わせや思ふべき視点に出会い交流は、貴重なひとときです。これからも新たな出会いを楽しみにしています。



パラソルスタッフより

理系女性人材
実際にアンケート調査を実施しているいろいろな声を聞いた点はパワーを感じた！

自分が理系に進学した女性だからこそ、当事者の気持ちがよく出ていたよ！

なぜ理系女性は少ない？
男子は理系、女子は文系という社会的な無意識の思い込みがある

無意識の思い込みについて、グラフを使ってわかりやすくまとめてくれました。

高等教育の文系・理系の選択状況
理工系女子 大学入学者数と比率
大学入学者数と比率

日常的なところから見えるという視点はよかった。

安心・安全な避難所へ～災害時のジェンダー配慮～
避難所ではどんな問題がある？
・プライバシーが保護されていない状態での着替え
・生理用品の不足
・性暴力やDVの発生
・性別による役割分担
(例：女性=炊き出し、男性=力仕事)

2024年の能登半島地震でも様々な声が...
炊き出しは女性の役割だった...
衛生用品が不足していた...
着替える場所がなく、布団の中で着替えた...

どうして？
各自治体の防災部局における女性職員の割合
防災部局に女性職員がない自治体：52.7% (918自治体中174自治体)
災害対応を担う場に女性がいない
=女性の声が届きにくい
という現状があるから！

パネル展示の内容はWEBでもご覧いただくことができます。
<https://www.parasol.jp/gender/>



開催報告 | 小学生向け夏休みジェンダー教室

夏休み ジェンダー教室

小学生向け『夏休みジェンダー教室』を、「矢川プラス」にて開催しました。1日目は3名、2日目は17名の参加でした。また、パラソルでインターン実習を行う大学生も一緒に参加しました。



2025年8月13日(水)・14日(木)

- バスソルトがきれいにつくれてよかったです！
- 大学生と話す時間があまりなかったから、しんせんだった。
- 日本がどれくらい不平等なのか、また、それは何でなのか知れて良かったです。学校の課題にも役立ちそうです。
- 主人公をつくるときにみんないろんなことをかんがえて自分では思いつかないことをあって楽しかったです。もっとジェンダー教室をやってほしいです。子どものうちからびょうどうにしたいです。

開催報告 | パラソルとくにたち映画祭2025の共催企画の上映会



2025年10月11日(土)

映画「メイド・イン・バングラデシュ」上映会

パラソルと「くにたち映画祭2025」の共催企画による上映会『メイド・イン・バングラデシュ』を開催しました。鑑賞後、午前の部(31名参加)では、ゲストスピーカー鈴木啓美さん(フェアトレードカンパニー株式会社 ピープルツリー広報啓発担当)のお話を伺い、午後の部(24名参加)では、参加者のみなさんとトークを行いました。鈴木啓美さんからは、フェアトレードのお話を伺い、私たちの身近にあるファストファッションの影にある環境問題、バングラデシュにおける貧困と労働問題、ジェンダー格差の現状について深く考えさせられる時間となりました。

「メイド・イン・バングラデシュ」公式サイト



開催報告 | Wリボンキャンペーン2025



Wリボンキャンペーン2025

「女性に対する暴力をなくす運動」(11/12～25)と11月の「児童虐待防止推進月間」期間に合わせ、「Wリボンキャンペーン」を開催。パラソル制作のオリジナルパネルを、くにたち・こくぶんじ市民プラザ、旧国立駅舎、市役所ロビー、福祉会館、FSXホール(くにたち市民芸術小ホール)くにたち秋の市民まつりにて展示しました。(本紙P2.3にパネル・講演会の内容を紹介)



2025年11月

2025年11月29日(土)

開催報告 | くにたち人権月間

くにたち人権月間イベント

FSXホール(くにたち市民芸術小ホール)にて「くにたち人権月間イベント」が開催されました。パラソルではWリボンキャンペーンパネル展示と、レインボーバスソルトワークショップ(60名の方が参加)を行いました。



コラボ
企画

ダイバーシティトーク×ふらっと！しゃべり場 @一橋大学ダイバーシティ推進室

一橋大学ダイバーシティ推進室との共催

「ダイバーシティ・トーク」は、ダイバーシティ・イシューから特定のテーマを決め、自由にディスカッションする一橋大学の交流イベント。普段は学内限定のイベントですが、今回はパラソルとのコラボ企画のため、学生、教職員、学外から参加の方、スタッフ計9名にて共に語る場となりました。



わたしの
人権
開催
テーマ

開催報告 | ふらっと！しゃべり場

2025年9月～2026年2月

ふらっと！しゃべり場

定期
開催

- 毎月第1土曜日 14:00～16:00
- ふらっと寄れて・FLATな、だれでも交流会
- 年齢・性別関係なく参加できます

開催
テーマ

9月 「よく見せること」
10月 「『何者かになりたい』の『何者』って何？」
11月 「『不機嫌』との付き合い方」

12月 「(アライ)イークくにたち」
「違い」にまつわる感情
1月 「許せない気持ち」
2月 「『推し』に押しつぶされる!？」



【アライイークくにたち】
「アライ」とは英語で同盟や支援を表すAllyから、LGBTQを積極的に支援して行動する人のこと。「アライ」についてもっと知り、考えるための啓発期間です。

今回は、昨年7月に国立駅前にオープンし話題となった「国立駅南口子育ち・子育て応援テラス」を訪ねてみました。入り口からは旧駅舎の赤い屋根もすぐ見える距離があり、一歩中に入ると、大きなガラス窓から入る光、木の温かみを生かした空間が広がっています。今回お話を伺ったのは、所長の青木さんと、子育てひろば所長(矢川プラス兼任)の大田生田さんのお二人です。



子育てひろば所長の大田生田さん(左)と所長の青木さん(右)

——まず、どのような施設でしょうか？

2年前にオープンした「矢川プラス」に続く、子育て施設です。室内には3つのエリアがあり、1つ目は就学前のお子さんと保護者が利用できる子育てスペースの「こすきひろば」、2つ目が、一時保育の託児サービスを提供する「ひととき保育室」、そして3つ目が共有スペースで学習や読書、ワークスペースとして子どもから大人まで利用できるカウンター席の「ひろがるこみち」と飲食ができる「つながるスペース」があります。

——国立市ならではの特徴はなんでしょうか？

子育て支援はどこでもやっている中、「国立市らしさ」を考えたとき、単に箱物を作つて「はい、おいで」ではなく、人の手による支援を厚くしようとしました。他市と比べて、このテラスも矢川プラスも、広場スタッフの数が圧倒的に多いです。子育てをしている方々のちょっとした悩みを拾い上げるために、おもちゃを置くだけでなく、人を厚く配置する必要があるからです。スタッフたちも、あえてエプロンを着けず「支援員」という感じを出さないようにしています。利用者さんとスタッフが、横並びの関係みたいな感じで接すると、ボロッと本音が出やすいんです。「うちはこうだよ」「大変だよね」と言い合いながら子どもに靴を履かせたりしているのを見ると、肩の力を抜ける場所があることは、とても大事だと感じます。

——7月にオープンしてから約半年ですが、当初の想定と比べ、意外だったことやエピソードはありましたか？

「こすきひろば」については矢川プラスと併用している方が多く、午前中はこちらにいて、午後はあちらに行って…と、私たちよりも活動的でびっくりするくらいです(笑)。お父さんの姿も当たり前の風景になりました。共有スペースの「ひろがるこみち」では、夏休みに入った途端、中高生を中心に利用者がぐっと増えました。用意した50席が、土日は朝から、平日も夕方から夜10時の閉館までほぼ満席が続き、これは想定を上回る反響でした。「中高生の居場所がない」という今どきの実態も目の当たりにしましたが、不思議なことに、共有スペースの利用者から「子どもの声がうるさいからブライントを開め

てくれ」といった意見は一度もないんです。それだけではなく、15歳の子から「親子優先席を作つてあげてほしい」と意見箱へ投書があつたときは、こちらが仕掛ける前に意見を出してくれたことが、とても嬉しかったですね。

——今後、新しい企画やパラソルなど他施設との連携などは考えていらっしゃいますか？

共有スペースが中高生の居場所になっているように、ここは「子育て」だけでなく「子育ち」との両方を応援する場所だよ、という意味を込めています。目標にしているのは、中高生が自分より小さい子と触れ合う機会をつくることで、勉強だけではない「子育ち」をここで実現できればと思っています。支援のなかでさまざまな相談を受けることもありますし、子育て中はどこのお家も、その家らしさを作ろうと一生懸命で、ゴタゴタするのは当然の時期だと思うんです。そんな中でちょっとホッとしたり、肩の力が抜けたりするような「雑音」は必要なんですよね。一人の人間として尊重されているか、役割に入りすぎていないか、といった話は、みんな本当はしたいんだと思います。ひろばには、スーパーに行くような感覚で立ち寄つてほしいので、大きなイベントはしない代わりに、その「日常」をテーマにパラソルとも連携できることがあればいいなと思います。



記：国立市の「桜」の木材がところどころに使われ、木育や地産地消を進めた施設でもあり、このテラスのキャッチフレーズ「こどもと、まちがいしょに育つ場所。」の通り、市民が育てていく施設だと感じました。「子育ち・子育て応援テラス」を知らなかつた、子育てには縁がないという皆さんも立ち寄られ、国立の桜材がどこに使われているのか見つけてみてはいかがでしょうか。



国立駅南口
子育ち・子育て応援テラス
<https://kunitachi-terrace.jp>

パラソルおすすめの本

パラソルスタッフそれぞれの「推し本」を紹介！

地方女子たちの選択

上野千鶴子・山内マリコ(著) 藤井聰子(協力) 2025年 桂書房



女性たちは、なにを背負い、苦しみ、喜び、生きてきたのか。
富山の女性44人の語りを聞かせて。
上野千鶴子 山内マリコ

富山ゆかりの女性たちのライフストーリー。彼女たち14人の語りは、「地方女性の数」ではなく「その人自身の人生の選択」そのものでした。読み進めるうちに、地方出身者の方は「あーこんなこともあったな。」と共感することもあり、自らが選び、決めた当時の気持ちを思い出させてくれるかもしれません。「地方の女性流失」が問題になる現在、単に数だけのことではないと気づかされました。地方出身ではない方にも是非読んでほしいです。(✿)



多様な性を生きる
松岡宗嗣(著) 2025年 河出書房新社

多様な性を生きる LGBTQ+とて生きる先輩たちに人生のヒントを聞いてみた
松岡宗嗣(著) 2025年 河出書房新社
「梓のなかの“ふつう”とは何だろう」「みんなその梓にとらわれる必要ないのではないか」と考える人の輪を広げたいと願う著者が、性のあり方が“ふつう”でないことを悩み、「自分」について考え続けた8人の方々との対話をする。それぞれの物語が多く的人に「ひとりじゃない」という勇気をくれる。今いる場所から外に出たい若い世代はもちろん、大人たちに読んでもほしい一冊。(✿)

フェミニスト・ファイブ 中国フェミニズムのはじまり

レタ・ホング・フィンチャー(著) 宮崎真紀(訳) 阿古智子(解説) 2024年 左右社



FEMINIST FIVE
FEMINIST FIVE
FEMINIST FIVE
FEMINIST FIVE
FEMINIST FIVE
中国フェミニズムのはじまり
レタ・ホング・フィンチャー
宮崎真紀訳
阿古智子解説
2015年、国際女性デーを前にセクハラ防止のステッカー配布しようとした若い5人の女性が、中国国家の安全を脅かすと拘束された。近代化の真っ只中の中国が、なぜ非政治な彼女らをそこまで恐れたのか。弾圧の中、男性用トイレの占拠などのパフォーマンスアートやハッシュタグを利用した緩やかなフェミニスト活動が生まれるまでに世界や日本にも影響を与えた中国のフェミニズム運動を概括できる一冊。(✿)



れるられる
最相葉月(著) 2025年 岩波現代文庫
「支える人」「支えられる人」のように人を区分けすることで見えなくなるものの。私たちはときに、物事を「あちら側」と「こちら側」に線引きして捉えてしまうことがあります。共感できない他者を「あちら側」と見なすことで安心しようとするとき、その手前で踏み止まり、考えを深めるための言葉が並ぶ一冊です。ひとは誰もが重層的な「自分」を生きている。「れるられる」の風景に立つことで、その豊かさに気づかされます。(✿)

彼女はNOの翼を持っている

ツルリンゴスター(著) 2024年 双葉社



高校生のつばさが、自分と相手の気持ちを大切にしながら、一つ一つの出来事のひっかかりを丁寧に解きほぐし、NOを伝え合い、互いにとって良い関係を作っていくプロセスを描く。本邦は、言わなきやわからないことだらけなのに、「嫌われたくない」「周りに合わせる」でなんとなく逃げていたら、気持ちも関係も見失なってしまう。NOが「断り」「や否」から、自分や周りの人を深く理解するための入口になるかもしれない作品。(✿)

名著でひらく男性学〈男〉のこれからを考える

杉田俊介・西井開・川口遼・天野諭(著) 2025年 集英社新書

男性学に関心はあるが、専門書はハードが高い。そんな私に最適な一冊でした。著者は男性4名ですが、彼らが読み解く名著の書き手は主に女性です。「男性学をひらく」とは何か?理論と実感の狭間で悩み、懸命に自らの言葉を探す著者たちに、私は強く惹きつけられました。読後に誰かと語り合いたくなる一冊。(✿)

名著でひらく男性学〈男〉のこれからを考える

杉田俊介・西井開・川口遼・天野諭(著) 2025年 集英社新書

男性学に関心はあるが、専門書はハードが高い。そんな私に最適な一冊でした。著者は男性4名ですが、彼らが読み解く名著の書き手は主に女性です。「男性学をひらく」とは何か?理論と実感の狭間で悩み、懸命に自らの言葉を探す著者たちに、私は強く惹きつけられました。読後に誰かと語り合いたくなる一冊。(✿)